

センターだより

第72号

令和5年8月21日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997FAX017-728-6351

あomorい教育研究発表会2023 ～未来につなぐ青森の教育～のお知らせ

と き：令和5年10月27日（金） ところ：青森県総合学校教育センター

- 9:00 受付開始
- 9:30 開会行事
- 9:40 センター研究発表（ICTを活用した授業アイデア）
- 11:20 昼食・休憩
- 12:20 2年目研究員研究発表 ※後日オンデマンド配信予定
- 14:10 講演「一人ひとりの子どもを主語にする学校をつくる」
独立行政法人教職員支援機構理事長 荒瀬 克己 氏
- 15:50 終了



令和4年度の様子

【センター研究発表Ⅰ】 9:40～10:10

| グループ | 研究内容 |
|----------------|-------------------------------|
| 算数、数学 | 統計分野におけるICTを活用した算数・数学科教育の研究 |
| 外国語 | 授業の充実に向けた、ICTを効果的に活用した言語活動の研究 |
| 音楽、図画 工作、美術 | ICTを活用した音楽・図画工作・美術の授業づくりと評価 |

【センター研究発表Ⅱ】 10:15～10:45

| グループ | 研究内容 |
|----------------|-----------------------------------|
| 体育、 保健体育 | 体育科・保健体育科の学習指導における1人1台端末の活用 |
| 理科 | 理科、物理、化学、生物、地学の授業におけるICTの効果的な利活用 |
| 社会、地理 歴史、公民 | 社会科・地理歴史科・公民科の授業における1人1台端末の日常的な活用 |

【センター研究発表Ⅲ】 10:50～11:20

| グループ | 研究内容 |
|------------|---|
| 国語 | ICTを活用した国語科の授業づくりに関する研究 |
| 特別支援 教育 | 読み書きに困難のある児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究 ー開発コンテンツの有用性の検証と研修パッケージの作成ー |

すぐに授業で活用できるアイデアの提供や、2年目研究員による研究実践報告が予定されています。

また、特別支援教育教材・教具展示会、図書資料室にある書籍等紹介ポスターの展示も行います。

荒瀬克己先生の講演からも多くの知見を得ることができるでしょう。

参加申し込みは9月の最終案内をご覧ください。多くの先生方のご来場をお待ちしております。



青森県総合学校教育
センターイメージ
キャラクター
アップセ君

※予定しておりました「家庭、技術・家庭グループ」の発表は、業務の都合上取りやめざるを得なくなりました。ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。後日、当該グループの成果物をセンターHPにアップしますので、ご高覧ください。

【2年目研究員研究発表Ⅰ】 12:20～12:50

| 発表会場 | 研究テーマ | 発表者 |
|---------------|---|------------------|
| 大研修室 | ストレスや困難に負けないしなやかな心の強さを育成するための指導の研究 －児童のレジリエンスを高める教育プログラムの作成・実践を通して－ | 教育相談課 工藤 美玲 |
| 中研修室 | 中学校数学科におけるUDLガイドラインに基づいた授業実践の有効性に関する研究 －生徒の学習意欲の変容に着目して－ | 特別支援教育課 渡辺 一真 |
| CAD・CG 研修室 | 中学校英語科において、自分の考えや気持ちを正確に書く力を高める指導法の研究 －ピア・フィードバックを取り入れた協働的な書く活動を通して－ | 義務教育課 太田 晴佳 |

【2年目研究員研究発表Ⅱ】 12:55～13:25

| 発表会場 | 研究テーマ | 発表者 |
|---------------|--|----------------|
| 大研修室 | 児童が安心して思いや考えを表現できる学級を目指した指導の研究 －学級の心理的安全性を高める教育プログラムの作成と実践を通して－ | 教育相談課 長尾 恵利 |
| 中研修室 | 中学校における情報活用能力の組織的な向上を図る支援プログラムの開発と実践 | 産業教育課 福士 智也 |
| CAD・CG 研修室 | 小学校算数科「データの活用」領域において数学的に表現し伝え合う力を高める指導法の研究 －日常の事象に生かす活動につなげる授業実践を通して－ | 義務教育課 渡邊 美咲 |

【2年目研究員研究発表Ⅲ】 13:30～14:00

| 発表会場 | 研究テーマ | 発表者 |
|---------------|---|----------------|
| 中研修室 | 中学生が自他の多様性を理解・受容する力を育む指導の在り方 －価値観の違いや自他の個性を尊重するプログラム活動を通して－ | 教育相談課 相澤 知佳 |
| CAD・CG 研修室 | 中学校国語科「文学的な文章」の指導において、考えの形成を図る指導法の研究 －比較の視点を生かした対話的な学習による授業実践を通して－ | 義務教育課 沖田 勇樹 |

【講演】

講師：独立行政法人教職員支援機構

理事長 荒瀬 克己 氏

演題：「一人ひとりの子どもを主語にする学校をつくる」



撮影：荒川潤

京都市立高等学校教諭，京都市教育委員会指導主事を経て、堀川高等学校教頭，同校校長，京都市教育委員会教育企画監を務める。その後，大谷大学文学部教授，兵庫教育大学理事，関西国際大学学長補佐を経て現職。

中央教育審議会会長，初等中等教育分科会長，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会長等

著書に『奇跡と呼ばれた学校』（朝日新書），『「アクティブ・ラーニング」を考える』（共著，東洋館出版社）他。「月刊高校教育」（学事出版）にコラムを連載。NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」の「『背伸びが人を育てる』校長・荒瀬克己」に出演。

研究主題

教育相談課 研究員 工藤 美玲

ストレスや困難に負けないしなやかな心の強さを育成するための指導の研究
 ー児童のレジリエンスを高める教育プログラムの作成・実践を通してー

研究目的

小学校5年生を対象にレジリエンスを高める教育プログラムの作成・実践を通して、落ち込みから回復するための対処法を身に付けることで、「しなやかな心の強さ」が育成できることを明らかにする。

研究概要

【レジリエンスを高める教育プログラム】
 ・SST・グループアプローチ
 ・リラクゼーション法・教科での実践
 を通して児童のレジリエンスを高める。

しなやかな
心の強さ

落ち込みから
回復し、前に
進む心の強さ
を育成する。

検証方法

・小学校5年生版レジリエンス尺度 ・小中学生用ソーシャルサポート尺度

2年目研究員研究の紹介 vol.2

【研究主題】

特別支援教育課 研究員 渡辺 一真

中学校数学科におけるUDLガイドラインに基づいた授業実践の有効性に関する研究
 ー生徒の学習意欲の変容に着目してー

【研究目標】

多様な教育的ニーズを有する生徒が在籍する中学校の通常の学級において、UDLガイドラインに基づいた数学科の授業を実践することが、学習意欲の向上に有効であるか明らかにする。

【研究仮説】

数学科の学習状況や得意な学び方に関する実態把握を基に、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教材や学習方法・手段等を提供する授業を実践することで、学習内容の理解が促進され、主体的に学習に取り組む態度が見られるなど、学習意欲が向上するのではないかと仮定する。

【研究方法】

事前調査

・教科担任からの聞き取り
 ・自己効力測定尺度
 ・学力の変容を見るためのテスト

実態把握

授業実践

・対象：中学校2学年の1学級
 ・単元：「連立方程式」全13時間
 ・UDLガイドラインに基づく実践

事後調査

・自己効力測定尺度
 ・学力の変容を見るためのテスト

結果分析

2年目研究員研究の紹介 vol.3

義務教育課 研究員 太田 晴佳

中学校英語科において、自分の考えや気持ちを 正確に書く力を高める指導法の研究 —ピア・フィードバックを取り入れた協働的な書く活動を通して—

研究目的 ピア・フィードバックを通して、互いに内容を改善したり、誤りを訂正したりする協働的な書く活動に継続して取り組ませることが、自分の考えや気持ちを正確に書く力を高めるために有効であることを明らかにする。

研究方法 単元を通じたPeer Feedback Writingモデルの実施
◇アイデアの構想と文章の構成を意識するハンバーガーメモ
◇相手の話を広げたり深めたりするピア・フィードバックⅠ【内容面】
◇相手の作文の誤りを訂正したり、
良い点を褒めたりするピア・フィードバックⅡ【言語面】

検証方法 検証テスト及び「書くこと」に関する意識調査の分析



2年目研究員研究の紹介 vol.4

教育相談課 研究員 長尾 恵利

研究主題

児童が安心して思いや考えを表現できる学級を目指した指導の研究
—学級の心理的安全性を高める教育プログラムの作成と実践を通して—

研究目的

小学校5年生の児童を対象に、「学級の心理的安全性を高める教育プログラム」を作成し、実践することにより、児童が安心して思いや考えを表現できる学級の形成につながることを明らかにする。

心理的安全性とは

お互いの意見や感情について
気兼ねなく発言できる雰囲気

研究概要

心理的安全性を高める4つの因子に
基づいたプログラム

- ・社会的スキルの習得
- ・グループアプローチによる人間関係形成

【心理的安全性を高める4つの因子】
①話しやすさ②助け合い③挑戦④新奇歓迎

学習中の交流場面
での実践・活用

児童が安心して思いや考えを表現できる学級

2年目研究員研究の紹介 vol.5

産業教育課 研究員 福士 智也

研究主題

中学校における 情報活用能力の組織的な向上を図る 支援プログラムの開発と実践

研究目的

生徒の情報活用能力及び、教員のICT活用指導力を組織的に高める手段として、支援プログラムを開発、パッケージ提供し、その効果を検証する。

研究仮説

生徒及び教員用に開発した支援プログラムをパッケージ提供し、校内研修に組み込むことで、活用の日常化につながり、その結果、生徒の情報活用能力及び教員のICT活用指導力の向上が期待できる。

■ あおもり教育研究発表会（10/27）、研究論文Web掲載（3月上旬）

研究方法

- 教員、生徒用支援プログラムを開発
- 実態から支援プログラムをパッケージ化
- 『3つの取組』で周知を図り活用を促進
- 『3つの取組』
- 研究員通信での紹介
- 研究員ホームページでの発信
- 校内研修（校内ICT活用研修）の実施

検証方法

- （全3回）情報活用能力チェックアンケート
- （R5.1～毎月）デジタル機器活用状況調査
- 生徒及び教員の情報活用能力の変容分析
- デジタル機器利活用の調査結果の変容分析

2年目研究員研究の紹介 vol.6

義務教育課 研究員 渡邊 美咲

小学校算数科「データの活用」領域において 数学的に表現し伝え合う力を高める指導法の研究 — 日常の事象に生かす活動につなげる授業実践を通して —

研究目的

小学校算数科「データの活用」領域において、グラフを読み取る視点や考察したことを表現する力を身に付け、日常の事象に生かす活動とつなげることで、数学的に表現し伝え合う力を高めることに有効であることを明らかにする。

研究方法

数学的に表現し伝え合う力を高める**三つの要素**の実施

- ア 結果を読み取り、数学的表現を用いて自分の考えを言葉等に表したり、説明したりする（**マスマス考えるシート**）
- イ 友だちの考えを聞いて理解したり、問い返したりする（**付箋を使った活動**）
- ウ 新たな気づきについて発展的に考える（**マスマス振り返りシート**）

検証方法

数学的に表現し伝え合う力を高める**三つの要素**の評価基準による記述等の質的分析とその変容の検証等



2年目研究員研究の紹介 vol.7

教育相談課 研究員 相澤 知佳

研究 主題

中学生が自他の多様性を理解・受容する力を育む指導の在り方
—価値観の違いや自他の個性を尊重するプログラム活動を通して—

研究 目的

中学生を対象に作成した「価値観の違いや自他の個性を尊重するプログラム」を実践することによって、生徒が自他の多様性を理解・受容する力を育むことに有効かどうかを明らかにする。

研究 概要

【プログラムの全体構成】

知識パート

① 先入観や思い込みで判断している可能性について知る。

② 他者の価値観や基準の違いを知る。

人それぞれ気持ちや価値観、物事のとらえ方、個性などが違うことを実感させる。
(グループワーク、SST等を利用)

実践パート

③ 他者の立場で物事を考える。

④ 相手の考えや心理状態を推察して対応する。

実際に起こりそうな場面を想定し、他者への対応の仕方を考える。
(SGE、ロールプレイ等を使用)

*プログラムの有効性を「他者理解尺度」「自己肯定意識尺度」により検証する。

2年目研究員研究の紹介 vol.8

義務教育課 研究員 沖田 勇樹

中学校国語科「文学的な文章」の指導において、 考えの形成を図る指導法の研究 —比較の視点を生かした 対話的な学習による授業実践を通して—

研究目的

中学校国語科「文学的な文章」の指導において、生徒が文章を読んで理解したことを、「類似」「対照」「発見」の三観点に分類し、比較しながら対話することが、考えの形成を図る上で有効であることを授業実践を通して明らかにする。

研究方法

- 「読むこと」の「精査・解釈」の段階において、自他の意見を比較する対話を行い、考えを形成する。
- ◇トウルミンモデルを活用し、「主張・根拠・理由付け」の三段落構成で意見をまとめる。
 - ◇自他の意見を比較し、「類似・対照・発見」という視点でマトリクスシートに分類・整理する。
 - ◇他者の意見を取り入れ、「類似・対照・発見」に応じた文例を用いて、意見の再構築を行う。

検証方法

- ① 量的検証(全国学力・学習状況調査、青森県学習状況調査 及び 自作問題のルーブリック評価)
- ② 質的検証(生徒のワークシート 及び 対話の録画データ)

